

## 豊かな地域療育を考える連絡会 報告とお知らせ

第193回定例会を9月8日(木)に実施しました。Zoomによるオンライン定例会は全体会・部会で35名の参加でした。2つの地域別部会に分かれてオンラインでの話し合いができました。

### 1. 家庭支援について～療育相談でんでん虫の取り組み紹介(ミニ学習会)

報告者 療育相談でんでん虫 栗原 敦子 さん

11月のフォーラムに向けて、療育相談・こども相談室でんでん虫の取り組みを紹介。

#### ○ でんでん虫の歩み

42年前1982年親と子の寺子屋でんでん虫の家としてスタート。なごみ園で障害を持っている子のお母さんの一声で始まった。障害のある子は昔は家で親がみるものというのが一般的だった。なごみちゃんのお母さんが遊び場をつくればということで障害のある子とお母さんが民家に集ってスタート。そのうちに地域のお母さん、障害のない子のお母さんも行っていいかという事で障害の有無にかかわらず集まる場所に。その活動をみた川崎市も法人化しないかと。そして地域の障がいのある子もない子も集う場所という事でなごみ保育園ができた。保育園では障害のある子の療育ができないので、でんでん虫を別に立ち上げることになった。通ってきた子どもの状況、家庭が足りないというところ(支援)にに応じていく形でなごみ福祉会のあらゆる事業が展開されることになった。

#### ○ 家庭支援の重要性

スタート時からつねに家族支援を両輪に置いていた。音楽療法、小集団のグループ活動。小さな時期からかかわっていくことが大切なのだということで、保育園に来ている子たちを見ていたでんでん虫にとってはあたりまえのことだった。地域で学校の中で居場所ができない子のためのサイエンスクラブなど、小さな子から小学生までに対応している。

子どもたちをその子たちのいる社会の中で、その子を取り巻く生活の中で居場所ができる支援が一番大事であり目指すところ。そうでないいつまでも居場所ができない。支援の活動をしている時間・場所は切り取られた時間の中でしかその子は居られない。小学校の段階で学校の先生たちといかにかかわりができるか。学校支援。市内小学校の支援級を訪問すると先生から支援の相談。教育ではない家庭を支える支援のやり方についての質問。学校の先生と共有しながら行っている。先生方も学校に来ている姿だけでは、また教師としてだけではすくい取れない問題を抱えている家庭も多く、それを支えうる福祉につなげる、また児童発達、放課後デイ、などの事業所と連携を行っていく。

共に生きるという、大きな理念がある。

相談に来た人をウエルカムではなく、私たちが地域に入っていくことをしなくてはいけない。実際制度だけではつなげられない、支えられない問題が多か

った。家族支援、家族の疾病や兄弟の出産時に預かるなどの支援も行った。

#### ○ 子育て支援センター「ペジューブル」

小さなころから係ることが当たり前だった。さぎ沼なごみ保育園に子育て支援センター機能「ペジューブル」を2006年オープン。障害のあるなしにかかわらず誰でも来られるところ。ここは発達への不安があっても気軽に相談できる場所に。でんでん虫は障害のあることが分かっている状態。ペジューブルは子育ての相談の段階でかかわれる。療育センターや保健所などより先にリスクの状態の観察やお母さんの気持ちをペジューブルですくい上げる。なんだかわからないが他の子と違う。発達が遅い?など0歳児の赤ちゃんの時に親が心配になる状況を相談して、親の状況、心持ちをみながら親と次の段階に進めるように支援する。地区割のケースワーカーにじかにこちらから連絡してから保護者に「うちからも連絡してあるので安心してワーカーさんに連絡してみて」と親が連絡しやすくしたりすることも。親も療育センターに行ってまたその状況を報告に来られたり、ずっと支援を続けることができた。

子どもに障害があるのではという親の不安の時期に様子を見るとか、もう少し待ちましようと言われてしまったりしてしまふ。それでは不安は増大し子育てが上手くできない、子どもに関われないことにもつながってしまう。気軽に来所してスタッフに声かけや親子で来て他の親と話すなど。こういった役割を持つ場所。子どもと一緒に気分転換ができるように。お父さんと一緒に活動もできる。母親だけにかかわることがすべてではない。

ペジューブルの機能。2013年に行政の支援のあり方が再編成され、相談支援が子どもから大人までとなった。今までの成人の相談支援の仕組みでは子どもの支援は難しい。すみ分けるために2013年から子どもの相談に特化して自分たちの今までの経験を生かす。一度の相談では解決しない問題が多い。いつからでもどこからでも継続的な子どもとその親の相談室。川崎市の事業も付いている。

#### ○ 待たせない、断らない、切らない

連携という名のたらい回しをしないようにしようと言ってきた。当時あった自立支援協議会などを通じて、本当の連携を重要視してきた。待たせない、断らない、切らない。曜日や時間にかかわらず電話、

面談、訪問、手伝いがちゃんとできていたのか。自分たちだけで支援できたわけではなく、たくさんの皆さんに支えられながら支援をしていると思う。障害の有無を診断する前にまず子育ての支援。育てにくさ、他の子となぜ違うのか親子関係の悪化をさせないために、子育てに向かい合えない状態にしない。

#### ○ 最近の変化する親を取り巻く状況

お母さんたち。最近のお母さんたちの状況が変わってきた。支援サービス。SNSで様々な情報を検索。療育センターに、どこかにつなげなければ、通わせなければ、一生懸命動いてそこで何かが終了してしまう。自分の子どもにあった状況を得られない。自身を変えようとペアレントトレーニングに行くがうまくいかないなど。いい方向の変化になっていないことが多々ある。なぜそうなっているのか考えないといけない。いろいろなアプローチや支援の方向

が改善していない。困り感など地域で考える必要があるのでは。お父さんの出番。お父さん、お母さんのそれぞれの思い。学校にも思いがあったりする。連携の重要性を感じる。いろいろなことができると思っている。つなげていくことが役割。それには地域の人たちとの連携が大きい。

印象に残ったお父さんの一言がある。そのお子さんとは2歳になる前からかかわってきた。小学校に入る前に家庭での支援が難しくなった。そして入所に。入所を選ぶときに、お父さんもお母さんのことを思いやり、子どものことも大事で悩んでいた。「入所させた後、皆から忘れ去られることが一番怖い」。地域の気軽な思いが家庭を助けることもある。守義務などいろいろなものができているが地域社会の支えは大きい。

## 2. 子ども権利の日フォーラム 事務局より

#### ○ 事務局 より

川崎市独自のこどもの権利の日市民企画事業で連絡会も毎年フォーラムを行っている。例年11月23日に開催しているが今回は11月12日土曜日に開催予定。

フォーラムでは子どもの権利の日と結びつけて地域で障がいのある子どもの支援とそれを取り巻く課題についてテーマにしている。今回はでんでん虫の栗原さんに報告をお願いした。川崎は全国で一番先に「子どもの権利条例」を制定。

子どもたちの権利を守るためには大人を含めた社会全体で取り組むべき課題と考え、結びつけてテーマを「家族の支援」とした。

#### ○ 担当 より

「子どもの健やかな育ち。それを実現するためには子ども自身への支援も大事だけどその子の家族の支援が重要になっている。そこで今回のフォーラムは家庭支援をテーマにとりあげた。今回のミニ学習会で話してもらった栗原さんと中央療育センター入所部の林センター長という2名の講師を迎えて事務局で進めている。チラシは連絡会のホームページなどに掲載。

家庭支援。保護者向けにチラシを配布してこうした問題に向けてくれるように。またこの問題について各事業所の人にも改めて考えてくれるように。多くの人に参加してほしい。

## 3. 夏休みを楽しくすごす会について

#### ○ 夏休みを楽しくすごす会

8月の中旬に開催予定だったが、またも急激な感染者拡大で中止という決断に。8月には連絡会もなかったのですごす会の参加希望者、出演者には中止の連絡をしたが連絡会そのものに正式に報告はしていなかったのでこの場で改めて報告する。危険を冒してまで実施して皆に迷惑をかけてはいけないということで中止に。出演者にアップできる動画等、何

かないのか問い合わせたところ、ミューザ川崎からすでにYouTubeで配信されている動画を提供していただいた。8月のわになろう会報に掲載。参加希望者等には会報を配って対応。他の団体にもお願いしたが各団体とも新たなものの準備は難しく、実現できなかった。今までのものがあるという団体もあったが提供には至っていない。今後オンラインでも取り組みができないか検討しているところ。

## 4. 近況報告

○ 今年の4月に出された政府の通達。特別支援学級の通常級との交流の在り方についての通知について。

今年度からの相談の中で交流を半分にとか、こんなに交流するなら普通級に在籍をと迫られる。初めは一人だったがちらほら同様の相談が出始めた。今までは現場でも柔軟だった。

次年度からこの通達に合わせて支援を変えるところが出てくる？対応が違ってくるのか？子どもの状況が変わりつつある。私たち保護者がもっと詳しくわかるようなことができないのか？相談支援をされている関係者に説明などはあったほうがいいのでは？（紙面の都合で他は略）

194回定例会は 10月20日（木） 9：30～11：30（全面リモートで実施予定）

参加申込および問い合わせは、事務局044-455-7468 七川まで